2024-2-4

世界遺産をどのように守っていくか

3年3組3番　石橋そよ
3年4組2番　稲場しほ
3年4組14番　兒玉芽蕗
3年4組27番　樋口心愛
3年5組28番　中村文香

keyword:「観光」「世界遺産」「保護活動」「教育」「価値」

1.はじめに

小さい頃から、歴史や昔の人々の暮らし、文化などに関心を持ち歴史に関する本を読んだり寺社など昔の人々が生み出した建造物に触れたりしてきた。現在、世界には多くの古い建物や美しい景観が存在する。しかし、自然災害、密猟や略奪などの違法行為や観光・開発圧力などによって消失の危機にさらされている遺産が増加傾向にあることを知った。そこで、そのように危機にさらされている遺産を守り、次世代に伝えていくために何か私たちにできることはないかと考え、「世界遺産をどのように守っていくか」というテーマのもとで探究活動を行うに至った。

2. 序論

今の技術でも解明されない歴史的建造物における謎、技術や規模の壮大さ、それらについて考えるとその深さに驚嘆する。自然が生み出してきた数々の地形や景色も例外ではない。どのように生み出されたのだろうと考えても答えが出ない。どのようにして造られたのか不思議に思うと共に、私たちが大切にしていくべき大きな価値があると感じるのは誰にとっても自然なことであろう。

遺産を守り受け継いでいくことは、遺産がある地域の文化、それぞれが持つ特徴等の多様性を受け入れることであり、そうすることが「人の心に平和の砦を築く」（ユネスコ憲章）ことにつながる。各国の遺産や文化をお互いに理解し合い、友好的に交流することで、平和が作られるのである。また、世界遺産は地域を発展させる力にもなるのだ。人々がこの意識を持ち、世界遺産が正しく管理され保全されていくことで、経済的・科学的・技術的・芸術的活動全てにおいても大いに役立つものになるのではないだろうか。多種多様の遺産が続々と登録されていく中で、全ての遺産を保全し大切さを実感することは、先祖から遥かな時間を超えて受け継がれてきた知恵や技術を知り、絶やすことなく次世代へ繋げていく上で不可欠である。

地球が持続的に繁栄するために作られた行動計画であるSDGsの11番目の目標「住み続けられるまちづくりを」では、ターゲットが10個設定されている。そのひとつに「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。」という目標がある。このことから昔から現在まで大切に保存されてきた建物や景観はこれからも保護していく必要があると考える。

3. 本論Ⅰ

私たちは高校生の世界遺産の価値に対する認識を把握するために、国際高校生全体を対象にアンケートを実施した。「世界遺産に興味がありますか？」という問いかけに対し、はいと答えた人が7割、いいえが3割の結果であった。はいと答えた人の意見の中には、「歴史を知るのが面白い」・「綺麗で美しい」などがあった。一方でいいえと答えた人の中には、「興味がない」・「世界遺産についてそもそもわからない」などの意見があった。「遺産は全ての人に大切にされていると思いますか？」という質問に対しては、7割以上が「いいえ」と答えている。そして、「遺産を大切にしていくべきだと思いますか？」という質問に対しては、回答者全てが「はい」と回答した。しかしその理由の多くは、「授業で習ったから」・「有名だから」などぼんやりとしたイメージのものが多く、「興味がない」・「流行っているものだけに関心がある」といった意見も多く目立って見られた。これらの結果から、世界遺産の持つ本当の価値を知って、大切にしようと考える人が少ない現状

に気づくことができた。世界遺産は多くの人たちにとって、馴染みのないものになっていることがわかる。そこで、遺産を残すための活動はしていても、人に遺産の素晴らしさや価値を伝える活動はあまりしていないのではないかという疑問に基づき、私たちの持った疑問と、遺産を守っていくにあたって研究者の見解と、それに対して私たちは次のように考えた。群馬県立自然史博物館の小鮒守氏の述べた群馬県にある登山道での登山者の自然に対する意識について考える。小鮒氏によると、「群馬県にある至仏山の登山道は降雨等による崩壊で植生の荒廃が著しく平成元年より八年間登山道を閉鎖していた。その後、修復と植生の復元を行った経緯もあり、現在は上り専用として利用可能となっている。」そして、「至仏山の利用に制限がかけられた事から近年は笠ヶ岳への登山者が増えた」という研究結果が出ている。この自然と人間が関われる場が減ったとしても別の場所で補おうとする姿勢から小鮒氏は「これからの社会に対して自然と人間が共存できる社会の実現を目指していきたい」と述べている。たとえある登山道が封鎖されたからと言って登山客が登山を辞めるのでは無く別の登山道を使って登山をすることから、自然との切ることが出来ないつながりの価値を認め、そのつながりを求める人たちがいることがわかる。そして、人間と自然が共存する社会の実現のために、小鮒が所属するNPO法人は自然遺産に認定されている尾瀬国立公園のゴミ拾いや外来植物である移入植物の現状調査を行っている。現状調査を行うことで移入植物が生えている範囲を把握でき、どの範囲を中心に移入植物の除去作業を行えば良いか分かり効率良く活動を進める効果がある。この活動に対して、人が多い時間帯や人がよく来る場所を中心に活動を行えば沢山の人の記憶に残り、ゴミの持ち帰りを心がける人が増えるだろうと思った。そして、この活動がさらに広がれば、自然保護に関心を持つ人もより増えるだろう。

また、宮澤光は「世界遺産とは世界の多様性を代表する、また、世界には私たちが普通に暮らしていると出合うことのない様々な文化や自然があり、それをしっかり守って伝えていく必要があり、多様性の保護こそが私たちの未来だ」と述べている。今は世界遺産や自然遺産となった建造物等もかつては人間が使用していた。そうして生まれた様々な特徴や特性を持つ多様性こそが人々が世界遺産を残そうとする理由なのだと考えた。人間と自然がうまくバランスを取ることでその土地ならではの多様性が生まれるのだ。

3. 本論Ⅱ

次に実際に奈良市観光センターを訪れ、世界遺産に関する観光面での現地調査を行った。観光は遺産にとって価値を広げ、遺産を人々が大切にしていることを示す役割を持っている。しかし、実際には遺産を訪れる人の多くはバカンス目的であるため、遺産の価値を理解していない観光客が多いということが分かった。そこで奈良市観光センターが実施している取り組みとして、環境保全のためのゴミの持ち帰りの呼び掛けやボランティアによる取り組みがなされている。また、海外から訪れる観光客に向けた各言語でのパンフレットなどを設置し、更なる遺産保護と価値認識を図っている。

他にも世界遺産や自然を守るためにこれまで実際に行われてきた取り組みが日本にも幾つかある。世界遺産を良い状態に保存する取り組みの一例として白川郷・合掌造り集落が挙げられる。観光客による混雑、渋滞、違法駐車、騒音問題、水質汚濁、住民とのトラブル、景観破壊などの問題が出てきたため、それらの観光公害を抑制し、広がりを防ぐために様々な解決策が試みられてきた。以前では、住民約600人のこの地域に多い時で7000人近くが訪れていたため安全が脅かされるほどの混雑が問題視されていた。そこで世界遺産の合掌造り集落を夜間にライトアップする人気のイベント「白川郷ライトアップ」において行われた取り組みについて、観光ビジネスをテーマに週刊記事を掲載するTraval Journalは次のように書いている。

> 対策として、18年は中華圏からの訪日ピークを迎える春節期間とずらして開催したほか、無料で自由に入場できた展望台を900人までと上限を設け、500円を徴収した。天候が悪かったこともあり、5000人程度に抑えられた。

加えて、完全予約制による対策も試みられてきた。宿泊事業者に向けて宿泊施設や最新のインバウンド情報、調査結果などを配信しているHOTELIERは完全予約制への取り組みと実施の結果について次のように書いている。

> 白川郷では展望台の大混雑を避けるため、2019年より完全予約制を実施している。展望台までの待ち時間については73%が「30分以上待つことは許容できる」と回答しており、予約制や混雑緩和への理解を示した。
> 白川郷を愛し、今回で30回目の来村となる台湾人写真家のチウ氏は「2011年から毎年ライトアップに参加していてびっくりした。一緒に来た友人も幻想的な風景を非常に満喫していたので、予約制は大成功ではないか！」と満面の笑みで語った。他の観光客からは「友人から混雑しているとは聞いていたが、今回は美しい風景を楽しめた。また違う季節に来てみたい」「スムーズに展望台に行くことができた」など好評だった。

私たちは、白川郷のように現在も地域住民が暮らす中で世界遺産として注目を集めることができるスポットは貴重だと感じる。しかしそのような価値ある地域はより一層人々からの注目が高くなり訪れる観光客も多くなるため良い状態に保存するよう管理することが容易ではなくなる。それで、世界遺産や美しい景観を守っていこうとみんなで意識していくために時には勇気を出して行動を起こすことが求められる。これまで無料だったところを値上げしたり、入場制限をしたりと観光客を沢山集めることによる利益を求めるよも「“受け入れる観光客のクオリティをコントロールする”」つまり量より質を重視する姿勢が観光客の世界遺産や景観に対する見方を向上させることにつながる。料金の設定や入場制限などが導入されてもそこを訪れる観光客は単なる観光スポットまたは時間潰しとしてではなく、自分の目で見るほどの価値があることを認めた上でその場に足を踏み入れることだろう。

4.結論

世界遺産を守っていくために、これまで様々な取り組みがなされてきた。しかし、未だ課題は無くならない。世界遺産に関わる人たちだけでなく、観光客として訪れる私たちすべてが、遺産への認識を高め、価値を理解していくことが求められる。私たちは幼い頃、昔の建造物や自然を訪れ世界遺産に触れてきた。しかし、世界遺産の価値が損なわれていくなら、これから先、生まれてくる子供達は、世界遺産に触れる機会を持つことすらなくなってしまうだろう。遺産そのものの価値が失われることはなくても、子供の頃から遺産について知る機会がなければ美しい遺産に関心を持つことは一層困難になる。人々が遺産と疎遠になってしまうなら、私たちにとって遺産は「必要のないもの」「私たちにとってどうでもいいもの」になってしまう。私たちは、そうならないために子供の頃から世界遺産について知る機会を教育の中に取り入れることは必要不可欠なのではないかと考えた。近年子供達が、世界遺産についてどのような認識を持っているのか現状を知った上で、伝えていくことが大切であると考える。授業などで扱うだけでなく、目に留まる場所に世界遺産の素晴らしさを書いたポスターを掲示することなど、「遺産を大切にしたい」という気持ちを持てるような取り組みが効果的なのではと考えた。未来を担う子どもたちの意識を変えていくことで、世界遺産に対する社会の見方もより良いものになっていくことを期待したい。

5.終わりに

私たち自身もこの探求活動を進めていく中で、世界遺産の価値に対する認識をより深めることができた。前述にもあるように、子供達が世界遺産を身近に感じ、価値を理解することが更なる遺産保護や継承につながるであろうと考える。実現することはできなかったが、小学校などを訪問し探究で得た知識や見解をプレゼンテーションすることで、身近なものとして興味を持ってくれるのではないかと考える。この探求活動により、他の人々にも世界遺産の素晴らしさが一層広まり、大切にされていくことを期待している。

6.参考文献・出典

小鮒 守『豊かな尾瀬の自然を後世に伝えるために』 最終閲覧日2022年11月21日
宮澤 光『人生を豊かにしたい人のための世界遺産』株式会社マイナビ新書 2022
travel journal「白川郷が観光公害対策で入域制限、事前予約や有償化でイベントの混雑緩」最終閲覧日2023年11月17日
HOTELIER 調査・データ 最終閲覧日2023年11月17日